

リハビリテーション科

近森リハビリテーション病院 院長 和田恵美子

リハビリテーション科医局

2019年6月17日から産休に入っていた山本亜希医師が7月27日より復帰、2020年2月12日付山崎医師が退職。初期研修医の鈴木医師が2019年7月～2020年3月末まで当院で研修を継続した。3月中は亀田総合病院から佐田医師が一月間研修した。

そのため3月より松本医師の外来を中止し、3階も専従病棟とした。6階専従1（中山副院長）、5階専従1（日浦医師）、3階専従1（松本医師）となり、3階東和田・西松本、4階東和田・西青山、5階東日浦・西日浦／青山、6階東西中山と一時は5人態勢となり、病床稼働率は減少した。2020年7月より4階西に山本医師が着任し9月から専従1を取得した。専従4病棟となり、3階東和田・西松本、4階東山本・西山本／青山、5階東日浦／青山、西日浦、6階東西中山が担当している。

リハビリテーション病院

3月～徐々にコロナの対応が開始された。送別会、新人歓迎会が中止。3月末より面会も制限となった。当院への外部講師の勉強会も中止。訪問リハ学会も来年に延期となった。

摂食機能療法経口摂取促進加算のために毎週カンファレンスの開始。

4月ホームページの刷新

5月～訪問リハ診察はWEBの利用も開始。

コロナのため、FIM講習会、オープンホスピタル、ポリオ検診が中止。

外来リハは待合スペースを利用、一階カフェ閉鎖した。

年間退院患者疾患内訳

退院患者数の総数は646名と減少している。急性転化率、平均年齢は大きな変化なし。減少傾向であった平均在院日数は79.7%と2019年より横ばいであった。(図1)疾患内訳で脳血管疾患は81%であり、減少傾向である。骨折は実数66名と増加している。脳卒中の減少が増数に影響している。(図2)

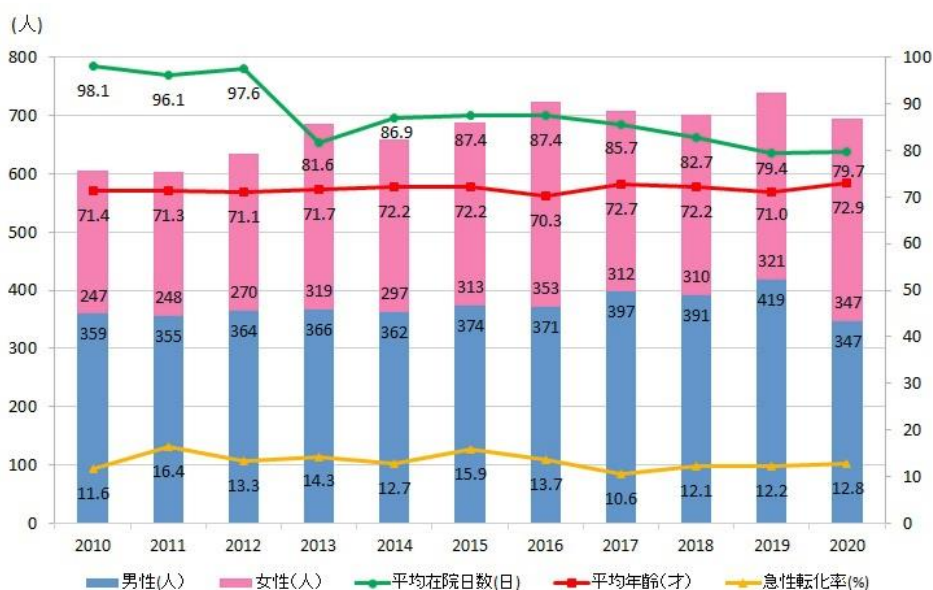


図1 各年の1月1日～12月31日退院患者より集計

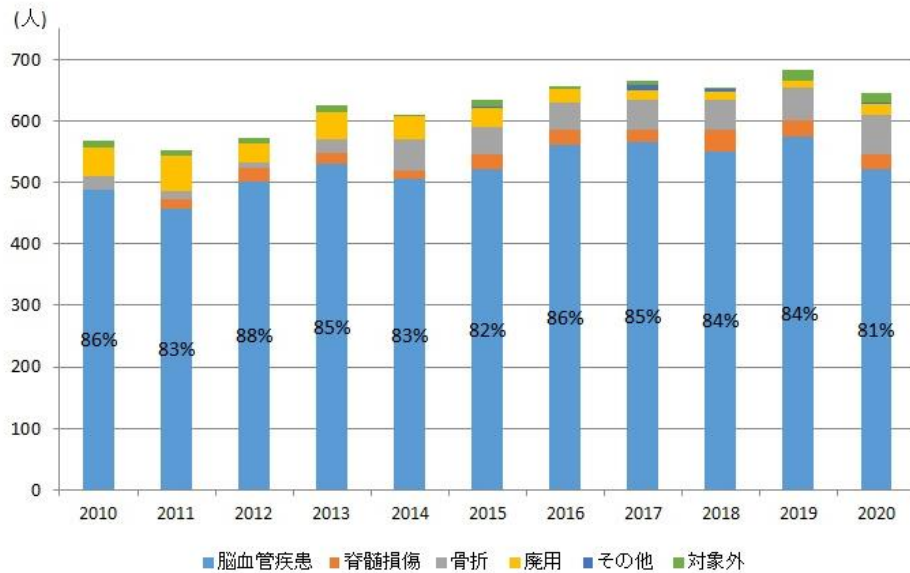


図2 年間患者疾患内訳 (新規入院患者のみ) 2010年～2020年

入院時平均看護必要度/重症率/重症患者回復率/リハ単位数 (平均) /自宅復帰率

入院時看護必要度は7.5で変化なし。重症率は35.9であったが重症患者回復率は44.2と低下した。リハ単位数は7.4。自宅復帰率は74.5%であった。(図3)



図3 各年の1月1日～12月31日退院患者より集計
 () *は急性転化除外の自宅復帰率

治療成績

平均年齢は 72.7 歳、入院前期間は 21.9 日。入院期間は 86.7 日。入院時 FIM71.3、退院時 FIM96.1、FIM gain24.8 と上昇傾向である。FIM 効率は 0.36 と最高値であった。

(図 4)

	年齢		入院前期間		入院期間		入院時FIM		退院時FIM		FIM gain		FIM効率	
	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値
2010年(n=500) 急性転化(66人)	70.6	72.5	28.8	26	104.2	99.5	70.2	71	96.4	109	26.3	23	0.25	0.27
2011年(n=454) 急性転化(90人)	70.9	73	28.1	25	104.1	93.5	72.1	75	95.5	109	23.3	21	0.22	0.23
2012年(n=494) 急性転化(71人)	70.6	74	29.6	27	107.8	104	70.1	72	93.6	109	23.6	21	0.22	0.23
2013年(n=533) 急性転化(81人)	70.9	73	26.7	23	89.2	83	74.6	78	97.3	110	22.7	20	0.26	0.26
2014年(n=535) 急性転化(72人)	72.0	75	26.2	22	94.6	89	74.2	77	94.5	107	20.4	19	0.22	0.24
2015年(n=524) 急性転化(100人)	72.1	75	25.8	23	95.6	90	71.6	74.5	93.0	106	22.0	19.5	0.26	0.24
2016年(n=571) 急性転化(82人)	72.3	75	24.8	21	94.3	89	72.3	75	95.3	109	23.1	21	0.29	0.24
2017年(n=592) 急性転化(66人)	71.9	74	21.5	18	90.4	86	74.7	78	98.8	112	24.0	21	0.30	0.27
2018年(n=568) 急性転化(83人)	72.1	75	22.5	18	87.9	87.5	74.9	79	98.9	111	24.0	22	0.32	0.29
2019年(n=588) 急性転化(77人)	71.5	74	22.8	18	86.7	80	72.0	75	94.7	108	22.8	20	0.32	0.27
2020年(n=551) 急性転化(79人)	72.7	75	21.9	18	86.7	83	71.3	75	96.1	110	24.8	24	0.36	0.33

図4 各年の1月1日～12月31日退院患者(急性転化を除く)より集計

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催

講演

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
ブリッジ姿勢での嚥下が食道蠕動に及ぼす影響 —高解像度マノメトリーでの検討— Effect of Bridge Position Swallow on Esophageal Motility in Healthy Individuals Using High-Resolution Manometry	青山 圭	Dysphagia オープンアクセス URL https://doi.org/10.1007/S00455-020-10169-0	